

## 平成19年度第1回千葉市社会教育委員会議事録

- 1 日 時 平成19年5月11日（金）午後2時～4時
- 2 場 所 千葉ポートサイドタワー 12階 第1会議室
- 3 出席者 （委員）  
犬塚議長、西川副議長、池田委員、大胡田委員、大和久委員、  
岡崎委員、片桐委員、菊池委員、伊坂委員、堀谷委員、松井委員  
（事務局）  
宮野生涯学習部長、本庄生涯学習振興課長、小川社会体育課長、  
村松青少年課長、田口中央図書館長、鈴木生涯学習振興課主幹、  
湯浅生涯学習振興課長補佐、君塚生涯学習振興課社会教育係長、  
高本生涯学習振興課主任主事
- 4 議 題
  - (1) 平成19年度生涯学習部主要事業概要について
  - (2) 平成19年度社会教育関係団体への補助金交付について
  - (3) 平成19年度千葉県社会教育委員連絡協議会代議員会  
地区事例発表について
  - (4) 平成19年度関東甲信越静社会教育研究大会事例発表について
  - (5) 社会教育委員会議研究活動について
  - (6) その他
- 5 議事の概要
  - (1) 平成19年度生涯学習部主要事業概要について
    - ・生涯学習部重点施策について、生涯学習部長が説明を行い、引き続き生涯学習部各課及び中央図書館から説明が行われた。その後、委員からの質疑に対して回答した。
  - (2) 平成19年度社会教育関係団体への補助金交付について
    - ・生涯学習部各課から説明が行われた。
    - ・社会教育関係団体への補助金交付について了承された。
  - (3) 平成19年度千葉県社会教育委員連絡協議会代議員会地区事例発表について
    - ・事例発表の候補として、千葉市子育てサポーターの活動について検討した。

- (4) 平成19年度関東甲信越静社会教育研究大会事例発表について
- ・「地域文化の保存と創造」という分科会に、千葉市生涯学習センター主催事業「ちばカレッジ」を事例発表の候補として検討した。
- (5) 社会教育委員会議研究活動
- ・今回は検討できなかったため、次回に持ち越された。
- (6) その他
- ・平成19年度指定都市社会教育委員連絡協議会が5月25日に広島市において開催され、西川副議長が出席予定。
  - ・社教情報NO. 56、45ページに西川副議長の寄稿が掲載。
- 以上2点について事務局から説明が行われた。

## 6 会議経過

(1) 平成19年度生涯学習部主要事業概要について

(議長) 平成19年度生涯学習部主要事業の概要について、事務局より説明をいただきたい。質疑については、全ての説明が終了後、一括してお願いしたい。

(事務局) (生涯学習部長が生涯学習部重点施策及び予算について説明を行い、生涯学習振興課、社会体育課、青少年課、中央図書館の順で主要事業概要について説明。)

(委員) 青少年補導センター補導活動事業ですが、青少年補導センターは中央+4分室ということで、職員13人とおっしゃっていましたが、職員とはどういう方なのでしょうか。

(事務局) 市の職員は除きまして、13人というのは嘱託職員のことです。

(委員) その方が街頭補導などの活動をしているのですね。補導員研修の補導員というのは、青少年育成委員の方ではなく、補導員という方が別にいらっしゃるのですね。

(事務局) そうでございます。当課には青少年育成委員が各中学校区にありますが、その他に青少年補導員という方がいらっしゃいます。

(委員) では、その補導員の方たちの研修なのですね。

(事務局) そうです。

(委員) もう一つ、青少年サポート(事業)、これはどのような方たちがおこなっているのですか。

(事務局) 元教員や元警察官の方たちです。

(委員) 若い学生のボランティアなどではないわけですね。

(事務局) はい。5名おります。

(委員) 年間を通して5名、嘱託として委嘱をしているわけですね。

BBS (Big Brothers and Sisters) 関係などと連携はされていないのですか。

(事務局) 学校からの相談により、教育委員会だけでなく児童相談所や他の施設等に対応する場合がありますので、ケース・バイ・ケースで行っているところです。

(委員) 非行で犯罪の少年関係は入っていないのですね。

(事務局) ケース・バイ・ケースですので、個々に状況は異なります。

(委員) それは大変ですね、ありがとうございました。

(議長) 他にご質問等ございませんでしょうか。なければ、次の議事に入らせていただきます。

## (2) 平成19年度社会教育関係団体への補助金交付について

(議長) 平成19年度社会教育関係団体への補助金交付について、本議事の諮問理由について、事務局より説明をいただきたい。

(事務局) 社会教育法第13条「国又は地方公共団体が社会教育関係団体に対し補助金を交付しようとする場合には、あらかじめ、国にあつては文部科学大臣が審議会等で政令で定めるものの、地方公共団体にあつては教育委員会が社会教育委員の会議の意見を聴いて行わなければならない。」とあり、これに基づいて諮問するものである。

(議長) 該当する課から説明をいただきたい。

(事務局) (生涯学習振興課、社会体育課、青少年課の順で補助金交付の概要について説明。)

(議長) 説明された補助金交付について、社会教育委員会として同意することとしてよろしいか。

(各委員) 異議なし。

(3) 平成19年度千葉県社会教育委員連絡協議会代議員会地区事例発表について

(議長) 先日の理事会の際に、平成19年7月19日の県の社会教育委員連絡協議会代議員会において、千葉市が(地区事例)発表するという事で引き受けてまいりました。事務局と相談の結果、千葉市子育てサポーターの活動を候補として取り上げてみたいと思うのですが、委員から概要等ご説明をお願いします。

(委員) 子育てサポーター事業とは平成14年度から行われている事業で、青少年相談員等の中から委嘱された市内各区3名ずつの子育てサポーターと家庭教育アドバイザーという臨床心理士1名で、中核公民館を拠点に活動しています。

活動内容としては、主に、公民館で行われている「子育てママのおしゃべりタイム」という事業において、親同士の交流や子育てサポーターとの交流をしています。さらに親同士のつながりを支援していくために、子育てサークルの発足や活動していくための支援をしています。そして私たち子育てサポーターだけでなく、地域の人たち誰でもがかかわれるようなコーディネートも必要なのではないかと思っています。

(議長) 何か質問はありませんか。

(委員) 他県、他政令市の状況はいかがですか。

(事務局) 残念ながら他の政令市、また県レベルでの状況については、データを把握しておりませんので、機会がありましたら調べてみたいと思います。

(議長) ぜひお願いします。

(委員) 子育てサポーターは協議会や団体のようなものではないのですか。

(事務局) 協議会としての組織はございません。

(議長) 具体的にどのような相談が多かったのでしょうか。

(委員) 孤立しているという状況があるので、小さなことでも悩みと感じてしまうようです。専門の相談機関へ行く前の場として、来ていただいていることもあるようです。

(委員) 写真を見ると、乳幼児のようですが。

(委員) 乳幼児の子育ての活動が多くなっています。本当はそれだけではなく、家庭教育学級などでも活動していく必要があると思います。

(委員) 学校でも落ち着いて人の話を聞いていられない状況というのは、やはり家庭教育に原点があり、解決方法を学校教育、社会教育、家庭教育、地域教育が一

緒になってみつけていくことができないものかと思います。

(委員) 父親の参加についてはどうなのでしょう。

(委員) 参加者の中から、お父さんがもっと参加できるようにという要望が少なからず出てきています。「子育てママの～」というネーミング自体どうなのかということもあります。

(委員) 放課後子ども教室も、やがてつながってくるような気がするのですが、内容についてもう少し説明してください。

(事務局) 平成18年度から全小学校で「地域子ども教室」を実施していましたが、そこで培ったノウハウを活用し、放課後の子どもの安全で安心して活動できる居場所づくりを進めるものであります。「放課後子ども教室」では、昨年度まで行っていたスポーツや文化的な活動に加えて、新たに、教育OB、教職を目指す大学生等が学習アドバイザーとして学習を支援する場を設けております。今年度からは教育委員会だけでなく、福祉部門の事業である子どもルームと連携しております。

(委員) よくわかりました。地域指導者の部分で、団塊世代にもっと地域デビューしてもらいたいですね。子育てサポーターにはちょっと無理かもしれませんが。

(委員) 先程いろいろな問題に対して、なかなか整理しにくい状況があり原点を探っていく必要があるというご意見がありました。確かに一つ一つは愚痴で終わってしまうようなことでも、かかわりの違うところと交流することによって、ひとつの共通した問題として捉えることができます。子育てにおいても、かかわっていく人を多くしていく必要があると感じています。

(議長) 子育て関連事業はいろいろありますが、それをつなげる場所がなかなかないようで、社会教育として連携・ネットワークという問題提起がなされたのではないかと思います。事例発表内容としての具体的なことについては、これから検討していきたいと思えます。

(4) 平成19年度関東甲信越静社会教育研究大会事例発表について

(議長) 今年度は熱海市で開催されまして、9月13日に発表を行う予定です。分科会名が「地域文化の保存と創造」で、地元の自治体と千葉市が事例を発表します。候補として、千葉市生涯学習センター主催事業である「ちばカレッジ」を

取り上げたいと思います。平成13年度から続いている講座で、コンスタントに多くの方が学習しており、その成果が冊子になっています。課題ごとに蓄積されているかなり本格的な学習活動です。文化活動という分野はかなり広いので、「ちばカレッジ」以外にこのような事例がありましたらお聞かせください。

(委員) 地域ぐるみの防犯活動などがいいなと思ったのですが。

(委員) 柏に住んでいる友人が柏学というのにかかわっています。延べ200回近く行っているようなのですが、千葉学は地域に浸透していつているのだろうか。

(委員) 文化活動は、千葉は遅れています。郷土愛をはぐくむ学習やサークルがもっとあればよいと思います。

(議長) この講座にかかわった委員はどう思われますか。

(委員) この講座は、生涯学習センターが出来たときに目玉として、グレードの高い講座を開設したいという発想からはじまったものです。講座の参加者は新住民の方ももちろん受講していましたが、地元の方も多かったのです。しかも継続して参加されるのです。そして地域に帰って、その方たちが公民館で講師としてガイドをする、そういう形で成果があります。できあがった冊子も価値の高いものだと思います。

(委員) 「ちばカレッジ」は全市を対象とした講座として、これだけ継続して行われているという点でも、これを事例として取り上げることは賛成です。議長が提案された報告資料のなかで、「受講者は60歳以上の市民が大多数」とありますが、受講者がどのような地域に住んでいる人なのかデータがあれば、基礎資料として整理しておくともよいと思います。

(議長) 今のところこの事例を候補として準備をすすめますが、何か別の事例を思いつきましたら、文化活動ですから複数事例があってもよいと思いますのでよろしくをお願いします。

(委員) 小さなものでも結構ですので、歴史保存等あったら、ぜひ紹介してほしいと思います。

#### (5) 社会教育委員会研究活動について

(議長) 今回は時間がないので、次回に持ちたいと思います。

(6) その他

(事務局) (報告・連絡事項)

- ※ 平成19年度指定都市社会教育委員連絡協議会  
5月25日(金)広島市で開催、西川副議長出席予定。
- ※ 社教情報NO. 56、45ページに西川副議長の寄稿が掲載。

(議長) 以上で本日の会議を終了する。

問い合わせ先 千葉市教育委員会生涯学習部生涯学習振興課  
電 話 043-245-5954